

平成30年6月26日現在

機関番号：37125

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K15877

研究課題名(和文) 演劇を用いたシミュレーション授業と教材開発に関する研究

研究課題名(英文) An investigation of the effectiveness of using a drama in the lecture of nursing

研究代表者

松原 まなみ (Matsubara, Manami)

聖マリア学院大学・看護学部・非常勤講師

研究者番号：80189539

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、演劇を活用した授業が看護学生にどのような教育効果をもたらすかを明らかにすることである。看護学生、助産学生、保育学生に対し、産褥期の母親及びその家族が直面する様々な問題を劇化した教材を、生演劇と、ナレーションや字幕等の説明をつけDVD化した映像メディアで鑑賞させ、それぞれに対する思いや気づき、感じたことなどの感想を授業評価として記述させた。その内容を分析した結果、演劇を活用した授業では、対象となる人物の情緒面への理解が深まる傾向がみられ、特に生演劇においてその傾向が強かった。これにより、看護という人を対象とする領域の教育の教材として演劇の活用は有用であることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the present study was to investigate educational effect on the students related to nursing field by using a drama as a teaching material. The drama depicted various problems which the mother in the puerperal period and her family coming up against were shown to the students majoring in nursing, midwifery, and childminder study by two ways, a live play and a video picture. The students were asked their impressions, thoughts or feelings to the drama at each of the two ways just after showing them by questionnaires. The answers to the questionnaires were analyzed by qualitative analysis. The results indicated that the lecture using the drama promoted understanding of the students to the emotional condition of the subjects in the drama. It was more prominent in live play. It implied the effectiveness of using the drama as a teaching material in the lecture of nursing.

研究分野：母性・女性看護学

キーワード：看護教育 シミュレーション 教材開発 授業研究 演劇 家族看護学 母性看護学

1. 研究開始当初の背景

近年、看護教育においてはシミュレーション教育が多く試みられるようになってきている。

シミュレーション教育の方法については、SP(模擬患者)やロールプレイ、ビデオといった映像教材の活用など、様々な授業実践が試みられている。しかしながらシミュレーション教育では臨床の一場面を切り取った場面が提示されることが多く、ストーリー性を持った現実生活の一場面として対象の生活を模擬体験として学習できる「劇化」の手法を用いた授業展開の報告は少ない。

2. 研究の目的

- 1) 演劇を活用した看護教育教材を開発する。
- 2) 演劇教材を活用した授業が看護教育に及ぼす効果を検証する。

3. 研究の方法

授業は、(1)学習者の特性別(看護・助産学生と臨床助産師、保育学生、祖父母世代の一般市民)(2)教材提示方法別(紙上事例、生演劇、DVD教材)に展開し、演劇教材の効果について検討した。演劇教材は以下の2つを使用して授業を行った。

- (1)産褥期の母親及びその家族が直面する様々な問題を劇化した生演劇。
- (2)生演劇のシナリオをもとにナレーションや字幕等の説明をつけDVD化した映像メディア

授業評価のデータには授業後の感想(自由記述)を用い、質的・帰納的に分析を行った。

【用語の定義】

本研究で扱う「シミュレーション授業」とは、i) 実際の臨床を取り上げて問題解決するシチュエーション・ベースド・トレーニング¹⁾で、思考過程トレーニングを目的とし、現実生活にみられる現象から、特徴的な産褥期の生活の要素を抽出して、モデル化し、模擬的に「劇化」することにより再現した教材を活用した授業として展開した。

授業評価の公表については、M 大学研究倫理審査委員会の承認を得た。

(承認番号 H28-014 号)

4. 研究成果

1)教材の開発

「劇化」の手法を用いたシミュレーション教材として、生の演劇からシナリオを作成し、DVD教材を開発した。

(1) 初めての子育て ; Vol. 1 産科退院後の生活

教材のねらい：初産婦が産科施設退院後に直面する問題状況を物語として劇化し、効果的な退院指導や母乳育児支援のためには入院中の母子がどのような家族のもとに退院しどのような環境で子育ての生活をスタートするのかを理解する。

(2) 初めての子育て ; Vol. 2 家族との生活
教材のねらい：二世帯住宅で夫の両親と暮らしている初産婦が出産後、不安を抱えたまま産院を退院した日から授乳や赤ちゃんの世話に追われ、疲労と育児不安を蓄積させていく問題状況を物語として劇化し、産後うつや乳児虐待が問題視される今日の子育て生活の実態を理解し、産後の母親と家族支援について、周産期に関わる看護職が理解しておくべき視点について考える

(3) 初めての子育て ; Vol. 3 産院入院中の生活
教材のねらい：不妊治療の末に妊娠・出産した初産婦の産科入院中の生活を物語として劇化。産科施設に入院している母子の変化や問題状況、産褥早期に必要な母子のアセスメントと看護の視点について学ぶ。

2)演劇教材を活用した授業が看護教育に及ぼす効果

(1)分析視点1：学習者の特性別の授業評価

【看護学生を対象とした授業】看護学生の“気づき”を促して対象理解の能力を育むことを授業のねらいとして演劇教材を用いたシミュレーション授業を実施した。

i)演劇を用いたシミュレーション授業

母性看護学の方法論の授業で母性実習の対象に興味を持てるよう、産後の育児生活をシナリオ化してプロの劇団に依頼し、生の演劇教材を鑑賞する。演劇観賞後、登場人物である家族成員： 母親、 夫、 義母、 義父の 4 つに、学生 5~6 名のグループを割り当て、それぞれの家族構成員の思いや置かれている状況について、ワールド カフェ²⁾形式でディスカッションする。割り当てられた家族成員以外の家族の思いや状況についても理解できるよう話し合った内容をクラス全体に発表し、学びの共有化を図る。その後、この家族に私たち看護職はどんな支援ができるかについて討議を行う。

ii) 看護診断過程のグループ学習

DVD 教材を視聴後、登場人物である褥婦の言動から、個々の学生が気づいた看護現象を共有するためのグループディスカッションを行う。その後、実際に病棟で使っている診療録と同じ様式で記載された情報を提示し、学生たちが気づいた現象を意味づけながらグループごとに関連図を作成させ、看護上の課題・看護介入を導くグループワークを行う。

iii) 母性看護学実習中の学内演習：DVD を活用したグループ討議とロールプレイ

実習中の学内演習で DVD 教材を使用した授業を行った。セッション 1 では〔産科入院中の生活〕を描いた DVD Vol.1 を視聴した後、個人ワークとして DVD から気付いた事、感じた事を記述する。その後、5~6 名づつ、2 グループに分かれ、個々の学生の気づきを共有する。話し合った内容や頭に浮かんだ内容はビジュアル化して相互に確認できるよう、模造紙にメモしながらすすめる。共有した気づきをもとに、産褥期の母子・家族に起こっている現象についてグループで関連図を作成し、両グループの内容を確認し合うことを通じて多様な視点を確認する。

セッション 2 では、産科退院直後の生活を理解するために、産科退院後、数日間の自

宅での生活を描いた DVD Vol.2 を視聴後、退院後に生じる育児生活上の問題に関して気づきの共有を行い、産科での受け持ち実習の事例も振り返りながら、産科入院中に必要だった支援に遡ってグループ討議を行う。セッション 2 でも、初めての子育て家族に起こっている現象についての気づきを模造紙にビジュアル化しながら共有する。

セッション 3 では育児期の家族の生活実態や、家族メンバーの心理、家族の関係性が描かれた DVD Vol.3 を視聴し、家族介入のロールプレイを行う。ロールプレイは、新生児訪問で産後うつに陥りかかっている状況を発見した助産師が、家族に集まってもらって家族介入を行うという設定で、役割演技は褥婦、夫、同居の義父・義母、看護師の 5 名とオブザーバーに割り当て、ロールプレイ終了後、演技者、オブザーバーで相互評価を行う。

授業評価に記載された演劇鑑賞後のグループワークの感想を質的に分析した。

看護学生は初めての育児に取り組む初産婦と家族について、【育児は大変】【産後の母親はつらい状況にある】【育児には周囲の理解や支えが必要である】【家族にはそれぞれの立場によりいろいろな思いがある】【世代間に育児に対する考え方に違いがある】【家族間の調整や家族全体に対する支援が必要である】などの気づきを得ており、母子とその家族の生活状況について実感を伴って理解していた。また、家族メンバーそれぞれの立場や思いに共感し、母性看護上の問題に気づいていた。学生は育児の大変さや育児に関する父母 祖父母の世代間ギャップ、養育期にある母親や家族が支援を必要としていることを理解し、家族に共感し、母性看護上の課題に気づいていた。授業目標であった「母性領域における対象理解のための学生の“気づく”能力を高めること」を目標とした演劇という教材を用いたシミュレーション

授業は一定の効果が見られたと評価できた。

【看護基礎教育課程以外への教材適用】

開発した教材の適用範囲を広げ、臨床助産師の卒後教育、保育学生の授業および一般対象の研修に教材を活用し、教材評価を行った。

臨床助産師の卒後研修会で、DVD教材を活用した授業を実施した。ストーリー性を持った現実生活が疑似体験できるDVD教材は、育児負担に追い詰められた初産婦の家族生活の実態を理解するのに有効であった。

保育学生の「小児保健」の授業でDVDを活用した演習授業を行った。授業評価には「こんな家族もあると気づいた。保育園に来る親の心が少しは理解できるかも」「細かい実写がなされていた。感じたことを保育者の実践につなげていきたい」など対象理解の視点を含む感想が多く挙げられた。

孫育て世代の一般市民対象の公開講座でDVDを活用した。参加者からは「若い母親の大変さと支える大事さがわかった」「離れて暮らす子育て夫婦の生活も思いやる必要を感じた」など世代間ギャップを埋める対象理解の感想が挙がっていた。

以上、映像教材視聴後はディスカッションやロールプレイへの参加が活性化され、看護学生の主体的な学習が促進されたと評価できた。

一方、保育学生の中には、乳児保育のイメージ化ができない事から「将来の仕事に役に立つ」と評価しない学生が69名中19名(27.5%)と高率に見られたこと、シニア世代対象の公開講座では、「映像の意味やディスカッションの意義がよくわからない」という感想もあり、対象者の特性に応じた授業展開(授業の目標、教材の使い方などの授業デザイン)に課題を残した。

(2)分析視点2:教材提示方法別の授業評価

助産学生の家族アセスメント能力を養うために、DVD「産科退院後の母子とその家族の生活」を用い、紙面による事例提示(ペ

ーパーペイシメント)を用いた家族アセスメント、DVD教材を使用した授業による家族アセスメントの2つの授業形態を比較し、演劇仕立てのシミュレーション教材の教育効果について評価を行った。

【方法】対象はM大学助産学専攻学生7名。家族看護学の授業において下記1.2.の授業を行った後、授業評価として、紙面上の家族と演劇によって提示された家族の把握しやすさについてVisual Analogue Scale法により数量的に評価するとともに、授業の感想の自由記載により質的に評価した。

1)紙面上の事例を読み、カルガリー家族アセスメントモデル(CFAM)を使用し、ジェノグラム(家族の構造図)・絆(家族の関係性)・エコマップ(家族と外部環境との関係図)を記載して家族アセスメントを行い、家族の問題について仮説を立てる。その後、学生間で家族面接のロールプレイを行う。

2)シミュレーション教材を観劇後、上記と同様、家族面接のロールプレイの授業を行う。評価項目は、家族の構造的側面の把握(家族構成、家族の関係性、ジェンダー、家族を取り巻く拡大家族との関係性)、家族の発達段階の把握、家族機能の把握(家族の手段的機能である日常生活、家族の言語的コミュニケーション、家族の非言語的コミュニケーション、家族の情緒的なつながり、家族の力関係、家族・家族員の信念)の11項目である。

本研究は、M大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号H27-005号)。

【結果】把握しやすい項目として学生は、順に1)非言語的コミュニケーション2)言語的コミュニケーション3)情緒的つながり4)力関係など、家族の機能的側面が把握しやすいと評価していた(図1)。また、家族構造は家族構造図として視覚的に確認できる紙面上の家族のほう把握しやすいと評価された。自由記載に於いては、「表情や動作を

直接見ながら母親や父親、義父母の関係性が見えた。」「どこにでもありそうな普通の家族構成だが母親は追い詰められている。」「母子の退院後の生活を見据えて指導や支援が重要とを感じる。」などと評価された。

【考察】助産学生は、家族看護を学ぶ上で家族をアセスメントする場合、劇化によるシミュレーション授業は紙面上ではわかりにくい家族の機能的側面である非言語的・言語的コミュニケーションや情緒的つながりなど把握しやすいと評価した。

【結論】演劇DVDを用いたシミュレーション授業は、家族アセスメントにおいて重要な家族の関係性の把握など、情緒的側面の理解において紙面上の家族では得られにくい教育効果を持つことが示唆された。

3) 総括

これまでのシミュレーション教育は伝統的な教育と同等の効果はあるものの、学習成果が必ずしも十分に現場で生かされておらず、行動変容にもつながっていない事から、現場に即したシナリオを経験すること、長期記憶に残る学習となるよう、身近な臨床場面を教材化することの重要性が指摘されている。本研究において、演劇教材は母性看護の対象理解において紙面上の事例では得られない教育効果を持つことが示された。

できる演劇教材を用いたシミュレーション授業は、対象理解の“気づき”を生じた結

果、ロールプレイへの主体的な参加が促進された。

演劇という教材の特徴は、1)物語性を有する、2)臨場感があり、役者と観客との間にエネルギーの場を媒介とした相互作用が存在する。

演劇は役者が演ずる物語を観客が観るという一方の図式ではなく、観客と役者の間に相互作用を行い、劇の世界に引き込まれ、あたかもそこに「共にいる」かのような疑似体験ができるという特色を持っている。

藤岡³⁾は、看護教育におけるシミュレーション教育の特徴について『臨床の実際からは一定の距離を保っているものの、それは非現実的な学習の場ではなく、舞台や文章の中に「現実」を感じとれるのと同じように、それをリアルに経験できるのがシミュレーション教育である』と述べている。さらに藤岡⁴⁾は、「臨床の知」における理論と実践を統合するために、従来の「訓練型教育による学習」から「アウェアネスを重視した学習」への転換、「主として認知に働きかける学習」から「認知、情意、行動の三側面に働きかける学習」をめざした授業へと転換していくことを提言しており、そのためには、「指導者の知識伝達の補助手段としての」教材から「様々な物的・人的リソースとの相互作用を提言しており、そのためには、「指導者の知識伝達の補助手段としての」教材から「様々な物的・

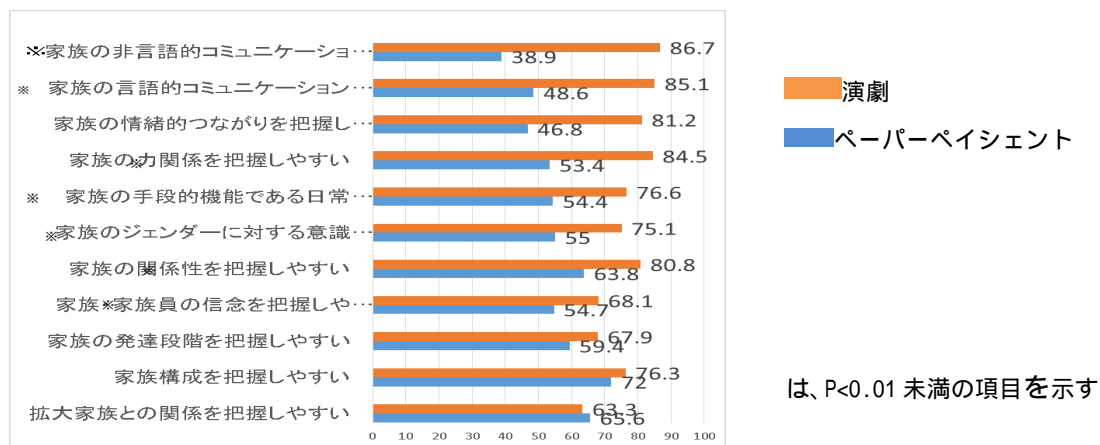


図1 [紙面上の家族と劇化された家族の比較] n = 18

は、P<0.01 未満の項目を示す

人的リソースとの相互作用を促進し、媒介する」教材の重要性を述べている。

演劇は市販の DVD 教材とは異なり、同じシナリオを対象の特性（看護または助産学生、新人または中堅看護師など）によって強調する学びの視点やストーリーを柔軟に変化させることができることが挙げられる。これらの特徴から、これまで看護教育において重視しながらも教室内学習では達成困難であった情緒領域の育成、共感性・感受性の育成という看護教育目標を達成することができる教材として有用であることが示された。

【引用文献】

1)阿部幸恵:看護のためのシミュレーション教育はじめての一步ワークブック・、医学書院、2015

2) Brown J, Isaacs D. 香取一昭, 川口大輔訳:ワールド・カフェ; カフェ的会話が未来を創る, ヒューマンバリュー出版社, 東京. 2007

3) 藤岡完治, 野村明美(2000): わかる授業をつくる看護教育技法3シミュレーション・体験学習, 1-11, 医学書院, 東京.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2件)

1) 川口弥恵子、松原まなみ、桃井雅子、田中千絵、柳本朋子、大町福美:看護学生の対象理解の能力を育むための授業をめざしてーシミュレーション授業の教材に演劇を用いた母性看護学演習の効果, 聖マリア学院大学研究紀要 第6巻, 45~52, 2016

2) 松原まなみ、田中千絵、柳本朋子、川口弥恵子、井口亜由、中村登志子:看護学生の学士力を育てるための授業~母性看護学教育におけるアクティブ・ラーニングの取り組み~, 聖マリア学院大学紀要第9巻, 31~37, 2018

〔学会発表〕(計 2件)

1) 田中千絵、川口弥恵子 柳本朋子 井口亜由 桃井雅子、松原まなみ:家族看護学の授業評価 ~紙面上の家族とシミュレーション授業による家族アセスメントの比較~, 第23回日本家族看護学会学術集会(2016年8月, 山形)

2) 松原まなみ、田中千絵、柳本朋子、川口弥恵子、中村登志子、菊原美緒:母性看護学における対象理解の力を育むための授業実践 ~産褥期の生活を劇化したDVD教材による学内演習~, 第19回日本母性看護学会学術集会(2017年6月, 武庫川市) [図書・映像教材](計 3件)

1) 松原まなみ、田中千絵、川口弥恵子:母性看護のためのアセスメント事例集 Vol.1 初めての赤ちゃんを育てる; 産科退院後の生活, 医学映像教育センター, 2017

2) 松原まなみ、田中千絵、川口弥恵子:母性看護のためのアセスメント事例集 Vol.2 初めての赤ちゃんを育てる; 家族との生活, 医学映像教育センター, 2017

3) 松原まなみ、田中千絵、柳本朋子:母性看護のためのアセスメント事例集 Vol.3 初めての赤ちゃんを迎える; 産科入院中の生活, 医学映像教育センター, 2017

6. 研究組織

(1)研究代表者

松原まなみ (MATSUBARA, Manami)
聖マリア学院大学・非常勤師
研究者番号: 80189539

(2)研究分担者

日下部 信 (KUSAKABE, Shin)
九州大谷短期大学・准教授
研究者番号: 30390298

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

田中千絵 (TANAKA, Chie)
川口弥恵子 (KAWAGUCHI, Yaeko)